

座 談 会

幼 児 教 育 と 教 材

出 席 者

林 健 造

佐 藤 諒

砂 場 三 郎

津 守 真



津 守

では、先ず皆さんにこうしてお集りいただいた意図からお話ししましょう。昨年十二月号に「幼児教育と教具」ということで牛島先生が詳しく書いておられますが、私は今まで保育内容の問題や保育方法の問題、その実際面や研究面をいろいろ考えてきて、最近、教材というものがいかに幼児教育にとって大切であるかを痛感している次第なのです。たとえば社会性をのばすにしても、先生が何かを言うだけではだめだし、また、子どもを集めるだけでもじゅうぶんではない。そこに教材とか教具とかを投入して、子どもがそれで遊んでゆくうちに社会性が伸びてゆくというような、そういうものがが必要です。これは社会性だけに限らず、知的な面でも、また何にでも同じような

ことが言えると思います。それも先生自身はかなり考えて作って、子ども自身にも考えて作らせることが必要になってきていると思うのです。最近はいろいろな商品が豊富に出ていますから先生方があまり自分で作ろうとしない傾向がありますが、少しでも工夫して先生が作れば、子どもの方にも工夫して使おうという意欲がわいてくるものです。

そこで、何かを実際に作ろうという場合に私も、材料や道具に関する基礎的な知識を必要とします。紙はどう扱うのか、木はどう扱ったらいのか、塗料はどうするのかというような教材の基礎的知識をどのようにして学べばよいのかということ、林先生と御相談して、この雑誌で砂場先生や佐藤先生

に書いていただいてきましたが、今日は直接におはなしをうかがいたい、こうして集っていただいたわけなのです。こちらはまだモヤモヤの状態です、いろいろな知恵をかして下さって、今後どの方向に伸ばしていったらよいか、示唆をいただきたいと思っております……

**砂場** 今、お話を伺ってみると、私は子どもの製作というものを頭に置いて、今まで何回か書いてきたのですが、半分当たっているような、半分はずれているような気がするのです。

**林** 今まで砂場先生はどういうものを書いて下さったのですか。

**砂場** 石膏とかセメントとか粘土について書きました。佐藤先生は初めから紙で統一していらっしゃいますね。

**林** ああそれはいいですね。

私は今津守先生のお話をきいて、本当にそうだと思ったのですが、子どもは物を媒介にして伸びていきますから、先生方は何を与えたら良いか非常に困るらしいのです。しかし現代の子を扱う場合にはよほど先生の方が考えて工夫したものを与えないといけませんね。

前にどういう方面は誰に書いてもらおうという分担をしましたね。砂場先生は、技能的な面を中心にしてということではなかったでしょうか。

**砂場** それといろいろな教材に関してでした。

**林** 佐藤先生には紙を中心にしてやってもらっていますが、何となく紙を使うことが一番多いですからね。

**津守** 佐藤先生には一月でもう五回続けて書いていただいています。

## § 幼児の工作道具

**佐藤** 私はこのごろ痛感するのですが教具、たとえばはさみ一つにしても、子どもの手にぴったり合うはさみというものは無いんです。子どもに合う工具を研究する必要があると思いますね。

**津守** それはおもしろいですね。

**林** 全く子どもの工具についての考え方は現在のところずさんですね。小学校を基本にして、幼稚園だからそれよりひとまわり小さければ、それでいいだろうと考えている。

**佐藤** 先日北海道に行ってきましたけれどひどかったですね。小学校でにぎりばさみを使っている子どもがたくさんいるんです。

私はわざわざ裁ちばさみを持って来るように言ったのですけれどね。そして切る時は机の下でかくれてコソコソと切るんです。

**林** それにはさみを持って来るように言うと子どもが使わないからこれでもいいだろうというわけで、うちでもう使えなくなつたようなはさみを持たせる所がまだ残っている。

**佐藤** どうも子どもが使うのは使い古しの切れなくなつたものといふような観念があるんですね。

**砂場** 私は本に書いたかもしれないけれど、切れすぎてけがをするという事は案外少なくて、かえって切れないからすべて手を切ったりすることの方が多いいですね。

津守 そうですね。よほど先のとがっているものなどは子どもにはあぶないけれど、そうでなければ切れないものの方があぶないですね。反対なのですね。

砂場 今幼稚園で使っている刃物は？ はさみだけですか。

津守 はさみとそれからボール紙切りぐらいでしょうか。あれもあまり切れないようですね。

林 昔はああいうので良いはさみがありましたけれどね。

はさみは握力なんかと関係するはずだが、子どもの握力なんかについても、現在、基本的な研究がなされていないんですね。

砂場 幼稚園用のはさみなら小型にすればいいという考え方が今の教育全体に言えるのではないでしょうか。

林 子どもの能力調査と教師の知識技能的な方向が必要ですね。

この附属小学校では、入学時にははさみについてはずいぶん吟味するのですよ。こちらで寸法などを全部注文してあつらえるのです。

佐藤 絵の具の道具が箱に入っていると同様にはさみや接着剤など一セットになっているかと思っていますね。

砂場 私が学校で三角定規の大きいものを持って来なさいというのに、みんな小さいのを持って来るのです。どうも三角定規は筆箱に入れるという条件に合わせるためにあんなに小さく作ってしまうらしいんです。何でも筆箱に入るように作ってしまう。むしろ中味の大きさに合わせていれものを作るべきなのに考え方が逆なのですね。

それと左利き用のはさみが全く無いというのは不便ですね。左利きの子もだつて同じようにはさみを使ったりしなければならぬのですから。

林 なるほど左利きのはさみというのはおもしろい。野球のグローブだつて左利き用があるんですからね。しかしむずかしい問題ですが、今でも左利きを右に直せというような方向があるんですね。

## § 教材の材料について

津守 近ごろ外国などでダンボールの製作が盛んになって来ましたが、そうすると、はさみなどもまたちがつてくるでしょうね。

砂場 私も子どもの製作に良いものとは考えたとダンボールなどいと思っていますね。

林 ダンボールは一巻きで売っているから、それを園で買って置いて、必要な時に使えば良いですね。

砂場 たしかにダンボールなども幼稚園で使うと良いですね。もつといういろいろな使いみちがあると思います。

佐藤 今、ダンボールに色をつけたものをやれと言っているんです。表が赤で裏が黄色とか……

林 ああ 色つきのダンボールね。

佐藤 現在は物を作ってから塗っているわけですが、それとまたちがつたものができると思うんです。ただあれはストックに困るのだそうですね。かさばるから。試作品はもうできているので

すが。

**砂場** 今はプラスチックの紙なんかもだいできていますね。

**林** 紙だけでなく、最近、廃材なんかにも良いのがありますね。

廃材ということばが悪いですけど、あき箱など大小いっぱいありますからね。それからカメラフィルムの空リールとかパトローネ、紙食器、錫の紙みたいなのなどもね。

**佐藤** アルミホイールっていうのでしょう。

**砂場** 子どもは空箱なんかも捨てませんからね。

**林** そういう廃材などを三ヶ月位通じて、いろいろな角度から見てみるのおもしろいアイデアだと思いますね。

**佐藤** 作るものを目標にする場合と、この材料を使ってという場合とがありますね。船なら船を作る場合に……

**林** 何で作るか。

**砂場** いちごが入っていた透明な容器がありましたね。あれなんかずいぶん役に立ちました。

**林** こういうものでこんなにできたと、百ぐらいターツとならべてみたらどうでしょう。そうでもしないと、すぐ何か無いでしょうかとと言うようになる。

**佐藤** 積木なんかもダンボールに砂をつめてまわりをテープでしっかりとして作ったらおもしろいのができましたよ。普通の積木だと真ん中に重心があるからあまり片寄らないように積んでいかないとくずれてしまうわけですが、この場合ですと中の砂をサーツとどちらかに集めると重心が移って、今まで考えられなかったような変形の積み方も可能になりますから。

**津守** なるほどね、それはおもしろい。

**林** うんおもしろいですね。

**砂場** 私も積木の事で、乗っかってもらわれないという事を条件にして砂場にれんがを入れてみたのですが、非常に長い間遊んでいるのです。いつまでたってもやれる教材、遊び道具、そういうものがもっと研究されるといいですね。

うちの学校では以前、校庭に岩石が置いてありましてね。子ども達はそれによじのぼったりなんかしてからだごとぶつけて遊んでいたのですが、そうやってただころがしておけばいいのに、いつの間にかそれを築山にしてしまったのです。そうなるとうちの子ども達は前のような興味は示さなくなりましたね。

そういうような事が幼稚園なんかでも言えるのではないでしょうか。

**林** 素朴な素材という事ですね。

れんがが飽きないというのは、創造性を発展させる幅が広いということでしょうね。

**佐藤** 今砂場さんが言ったようにからだでたしかめてゆすったりするという事で、水道管に使うパイプなどは良いですね。

**砂場** 最近では接着材が良いから幼稚園の先生でもじゅうぶん扱えますね。

**林** 素材で放り出しておくという事、たしかにおもしろいですね。

ウィーンの学校で見たのですが、あれの大きいのがデンと置いてある、良いですね、思う存分大きな活動ができて。

**砂場** たしかにね。よじのぼったりもぐったりしてね。そうやって

も案外気をつけて遊んでいてけがはしないものですね。

**佐藤** 都会の子どもはそういう事を考えると不幸だと思いますね。

**林** しかし不幸だといいながら子どもはどっかにもぐり込んで遊んでいる。そこに子どもの世界があるんですね。いわゆる現代っ子というのでしょうかね。

**砂場** 子どもというのは、どこかにもぐりたいという気持ちがいつもあるようですね。先日も学校でいらなくなった机を積んでおいたら、ちゃんとそこにおうちができていて子どもがもぐり込んでいるのです。

ところが折角そうやって子どもが遊んだ所でも、おとなはそれがわからないできたないとか散らかっているという感じ方をしてしまうんですね。そしてすぐ片づけてしまったときちんと並べかえてしまったりする。岩石なんかの場合でも、あるいは木でも石でも、何でもとにかく子どもが遊んだ所と本当にきたないちらかった所との区別はしなければいけないと思いますね。

**林** ウィーンンの学校で廊下に屋台店みたいのがあったのを見ましたが。

**砂場** それは先生が作ったものですか？

**林** 多分先生が作ったものだろうと思いますが、あれはおもしろいと思いましたがね、いろいろな発展が見られる。

## § 子どものアイディアと先生の知識

**津守** この頃、子どもは動くという事に対する興味が非常に大きい

ように思えるのですが、たとえば子どもが作ったものを動くようにしたいと言った時、先生自身が、そういう子どもの欲求をかなえてはやりたいが、実際にどうやったたら動かせることができるかわからないというような場合がずいぶんあるのではないかと思うのです。

**林** たしかに、動くおもちゃの機構というのかそういうものに対する知識は必要ですね。

**佐藤** 私が見たものですが、先生、そうの鼻の所に穴をあけて、自分の指を入れてブラブラ動かしてみたりさるの手の中に指を入れて動かしたりして遊んでいました。ちょっとしたことでも子どもは喜ぶんですね。

**林** それはおもしろいですね。そういうふうには、動かせるという事は、何も機械工学的なものでなくていいのですよ。

**佐藤** 幼稚園の先生は機構に案外弱いようですね。

**林** 先生は子どもに追いつかないのですよ。子どもの興味、習慣とか簡単な事を常にキャッチしておく必要があると思います。

**砂場** 子どもの見るテレビの漫画なども見なければいけないですね。

**林** 「鉄人アトムの方が強いよなあ」などと話しかけるだけで。ずいぶん子ども達の活気が出て来ますからね、先生が全然わからないのでは、子どもの方も話してもつまらないから話さないし、そうするとますます子どもからはなれてしまう。

**砂場** 工作なんかでも、幼稚園によつては条件づくめのものが多いでしょう。ここを折って次にここにのりをつけてというふう

な。どこかで子どもに逃げ道を作ってやりたいと思いますね。

津守 まったくですねえ、子どものアイデアを生かす道がないんですね。

林 馬車馬の如きというわけですね。一つのやり方、一つの方向だけにしぼられてしまつて、その一本道をはみ出さないように歩いて行くのが良い子だというふうに評価されてしまうんですからね。

砂場 条件の与え方にしても、もっとあるのではないかと思ひますね。

津守 たしかに、子どものアイデアを生かす時間も無いでしね。

## § 現代っ子と教材

林 話はちょっとちがいますが、必要な角度というものを考えてみると三つの群があると思うのです。第一群は教材の基礎となる知識と技能で、第二群はいろいろなアイデアです。そして第三群としては現代っ子という言い方がいいか悪いかはわかりませんが、現代っ子の食いつき方とかとらえ方といったようなものがあると思うのです。案外そういう事が忘れられているのではないのでしょうか。

先日現代っ子の作者の阿部進さんと対談したのですが、子どもの校庭の問題、一年生はどうも校庭に出しても上級生達に追われてしまつて遊ぶ所が無くなつてしまつとか、そういう事などを話し合つておもしろかったですよ。お手洗ひなんかに

何曜日には何年生がどこを使うとか、あっちのお手洗ひは何年生が使う所だとか、そんなことは決まっていることではないのに、自然に子ども達の間で不文律のようにできているらしいのです。で、こういうことと教材教具ということとは私、ずいぶん関係があると思うのです。子どもの習性とか、感じ方とか、とらえ方とかいうような事をもっと研究する必要があると思ひますね。

砂場 たしかにお手洗ひと学年の関係なんていうもの、あるらしいですね。

津守 おとなでもそういう事はあるのではないのでしょうかね。

林 あんまりそういう事、取り上げた事無いですね、子どもの習性とかいう角度と教材の関係。

津守 余談ですが、パーキンソンの法則という本がありますが、それによると人は広い部屋などに入ると左まわりに歩きやすい習性があるというようなことが書いてありますね。

林 こういう事は本当に大事なのに案外誰もやっていないんですねえ。

## § 今後の問題

津守 ところでいろいろ皆さんに話し合つていただいて、非常におもしろい問題ばかりでもっともお話ししていただきたいのですが、そろそろ予定の時間も近づきましたので、ここらで、先生方にはこれから何回か本誌に書いていただくわけですので、あ

とをどういうふうにやって行くかということを話し合っていた  
だいたいと思うのですが……。

佐藤 この雑誌を毎月とっている所で、実験園といったような所は  
無いのですか。

津守 実験園といったものは特別にはないのですが、お願いすれば  
いつでも協力してくださる所はたくさんあります。

林 ホッチキスなども最近たくさん出て来ましたから、使い方な  
んかを一度まとめてみるのもいいですね。

佐藤 ガンホッチキスというのものなかなか便利ですよ。

林 そういふものの紹介ですね。

津守 それからさっきの工具ということもね。

林 今後もこういう問題を押し進めて行く御計画なのですか。

津守 ええこの問題については、私はもっと押し進めて行きたいと  
思っています。これは必ずしも工教育的な事だけではないと

思いますね。実験幼稚園などもお願いして、やって行きたいで  
すね。

林 ではまた津守先生の教材に対するお考えなども伺って、一応  
佐藤先生にはホッチキスとか接着剤とかの事などをお願いしま  
しょうか。砂場さんには新教材を新しい角度でお願いしますね。

それから夏休み前の特集なんかで、さっき言ったような百の  
廃材というようなものを出してもおもしろいですね。そして十  
二月には、さっきの現代っ子の習性の問題ね。

佐藤 それからさっきの機構的なこともね。

林 そうそう、じゃあ三月頃には動くおもちゃのオンパレード

とか。

津守 それから木工関係のものもおもしろいですね。

林 私は靴びょうなど三足のね、ああいうのがいっぱいあると  
おもしろいと思うのです。顔やなんかになってはいないのに、  
抽象的なその形を見ているうちにそういうふうに見えてくるか  
らおもしろいですね。そういうのをテックスなんかにハンパン  
打つとか。

津守 なるほど、木でなくテックスというのもおもしろいですね。

林 それから発泡材とかいうのも出ていますか……

林 あれは接着がむずかしいでしょう。セメダインだと溶けてし  
まうし。

佐藤 この間ある研究会でもその接着が問題となったのですが、  
のりとセメダインのホワイトを混ぜるとうまくつきますよ。

それから私は紙製作をする時、必ず洗濯ばさみとまち針を用  
意させているのですが、なかなか具合が良いです。

津守 洗濯ばさみ？

佐藤 ええ、のりづけした場所をかわくまでとめておくのです。

津守 ああなるほどね。

林 先生にぜひぶん前になりますけど、糊土の事を書いてい  
ただきましたね。あれは非常によく受けて、今でもどこかで話  
をする時、どこでもやって来ています。

林 そうですか。私は、先生方が粘土に一番困っていらっしやる  
のではないかと思うんですよ。部屋がよごれたりとか。

砂場 それと石ころにも困りますね。

私の所には屋外教室というのがありますが、そこだといくらやってもよごすという心配がなくていいですよ。

林 うん、そういう工夫と、もう一つは粘土そのものを変えてしまふことですね。

津守 でも幼児には、泥粘土というのはたしかに良いですね。

林 ええ泥粘土にも長所と欠点があります。使ったあと形を長く残せなかったり、かたさがちょうどよくなかったり。

砂場 私は、作ったのを一枚一枚写真にとつてあきらめさせます。

林 全部ですか。

砂場 ええ。

林 それと、幼稚園などではそのクラスに備えつけの粘土があるから、場合によっては一日中だつてそれで遊んでいることでもできるけれど、小学校なんかでは時間がかかるごとに次々に違う学年が図工室に入つて来るから、三時間目ぐらいの子どもになるとだんだん粘土がたかくなってきて、作りたいものを作る前に一仕事しなければならなくなつてしまふんです。

津守 なるほど、たしかに小学校ではなやみでしようね。

砂場 でも高学年はどうしても形を残さないと満足しませんね。

佐藤 ちょうどいいやわらかさにしてある貸し出し粘土みたいなシステムがあるとおもしろいですね。借りて来て使つたらまた返すというふう。

砂場 でも自分の手で粘るといふことがずい分勉強になりますね。

林 そうですね。今、子ども達に粘土をさせる前に一回一回粘り直すという先生なんて少ないんじゃないですか。

砂場 それとやはり写真にとるといふのは良いですね。

津守 そうですね。子どもの作品はあときたなくなつてしまふから、やっぱりでき上がった時にカラーの写真なんかで撮つて残しておくのが一番いいと思いますね。

砂場 そうすれば、資料にもなりますしね。

津守 では皆さん、どうもいろいろお話しただいて、ありがとうございます。今後もしよろしくお願ひします。

#### 〈参考資料〉

砂場 三郎 子どもと教材 63巻7号、

製作のための材料・素材の基礎知識(一)(二)(三)

63巻12号 64巻1号、2号

佐藤 諒 紙製作材料の基礎知識(一)(二)(三)(四)(五)(六)(七)

63巻7号、9号、10号、12号、64巻1号、2号、3号

林 健造 保育教材のアイディア 63巻12号

牛島義友 幼児教育と教具 63巻12号

昇地三郎 幼児教育における積木の重要性 63巻8号

#### 幼児教育講習会

主催 日本幼稚園協会

お茶の水女子大学附属幼稚園内

期日 昭和四十年七月二十二—二十五日

会場 お茶の水女子大学講堂